

冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況

□ 冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況

	遭難件数				遭難者数							
	バックカントリースキー遭難		バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難		バックカントリースキー遭難				バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難			
	スキー登山遭難	スキー遭難	スキー登山遭難	スキー遭難	スキー登山遭難		スキー遭難		スキー登山遭難		スキー遭難	
	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人
平成20年	14	10	-	4	24	12	8	-	-	4	0	
平成21年	10	6	-	4	10	6	0	-	-	4	0	
平成22年	9	7	-	2	9	7	0	-	-	2	0	
平成23年	7	4	-	3	10	5	0	-	-	3	2	
平成24年	17	9	-	8	22	7	3	-	-	12	0	
平成25年	7	2	-	5	11	1	1	-	-	9	0	
平成26年	23	6	9	8	31	4	2	13	4	8	0	
平成27年	56	8	37	11	69	7	1	23	25	13	0	
平成28年	47	9	27	11	57	6	3	17	17	12	2	
平成29年	51	5	35	11	89	4	1	24	47	10	3	
合計	241	66	108	67	332	59	19	77	93	77	7	

【冬山シーズン】

北海道警察では、11月から翌年3月末までの間を冬山シーズンと定義している(平成20年冬山シーズンの場合は、平成20年11月から平成21年3月末までの間をいう。)

地域により積雪時期等が異なるため、全国統一されていない。

平成26年シーズン以降、スキー場内から管理区域外に出て遭難した形態を新たに「スキー遭難」と区分した。

□ 冬山シーズンにおける山岳遭難者の死傷別等内訳

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	小計	合計
		死亡	バックカントリースキー遭難	1	1	1	0	2(1)	1	1	3	0	0
	スキー遭難	-	-	-	-	-	-	0	2	1(1)	0	3(1)	
	バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難	1	0	0	2(1)	3	2	0	3	2	5	18(1)	
負傷	バックカントリースキー遭難	6	1	5	3	4(2)	1(1)	4(2)	2	4(2)	3(1)	33(8)	114 (43)
	スキー遭難	-	-	-	-	-	-	3(3)	13(8)	13(7)	15(13)	44(31)	
	バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難	3	2	2	3(1)	4	5	5	5	2	6(3)	37(4)	
無事救助	バックカントリースキー遭難	13(8)	3	1	2	4	0	1	3(1)	5(1)	2	34(10)	185 (73)
	スキー遭難	-	-	-	-	-	-	14(1)	33(17)	20(9)	56(34)	123(61)	
	バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難	0	2	0	0	4	2	3	5	10(2)	2	28(2)	
行方不明	バックカントリースキー遭難	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	スキー遭難	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	
	バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
小計	バックカントリースキー遭難	20(8)	6	7	5	10(3)	2(1)	6(2)	8(1)	9(3)	5(1)	78(19)	332 (119)
	スキー遭難	-	-	-	-	-	-	17(4)	48(25)	34(17)	71(47)	170(93)	
	バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難	4	4	2	5(2)	12	9	8	13	14(2)	13(3)	84(7)	
合計		24(8)	10	9	10(2)	22(3)	11(1)	31(6)	69(26)	57(22)	89(51)	332 (119)	332 (119)

※ 括弧内は外国人で内数

【バックカントリースキー遭難】

スキー場管理区域外をスキー、スノーボードで滑走する目的で入山し、遭難したもので、**スキー登山遭難**と**スキー登山**に分類される。

【スキー登山遭難】

スキー場管理区域外の山岳において、リフト・ゴンドラ等を使わず自力による登山行為を伴い、スキー等で登坂、滑降中に遭難したものをいう。

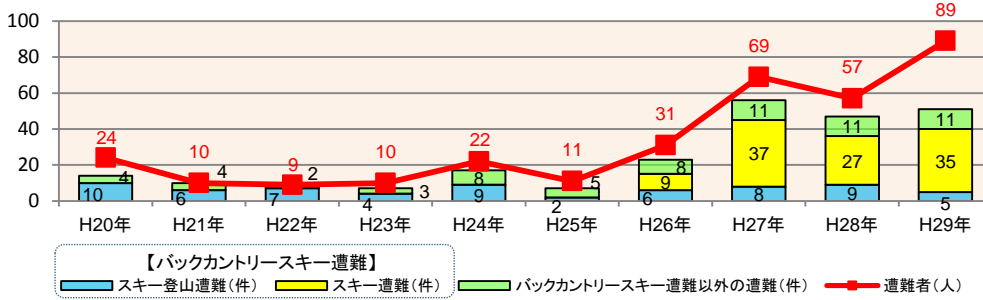
【スキー遭難】

平成26年冬山シーズンから山岳遭難統計に含めた遭難形態で、登山行為を伴わず、リフト、ゴンドラ等で山頂等に移動し、スキー等でスキー場の管理区域外を滑降中に遭難したものをいう。

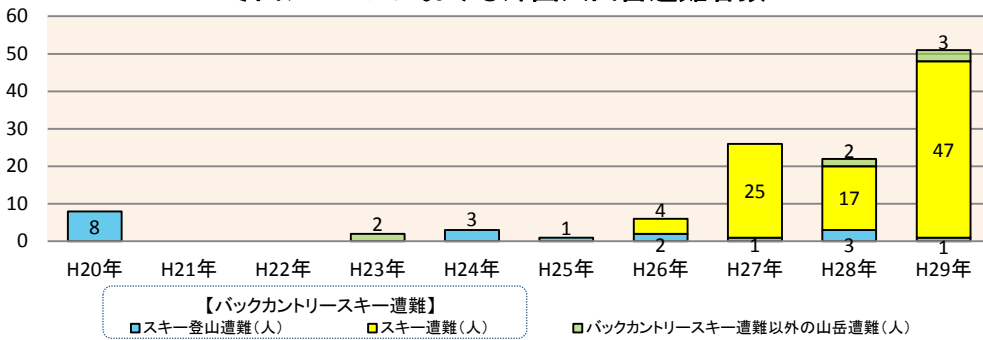
【バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難】

バックカントリースキー遭難に該当しない遭難形態で、スキー等での登坂、滑走行為を伴わず、つば足やアイゼン、スノーシュー等を装着して登山(下山)中又はアイスクライミング中に遭難したものをいう。

冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況



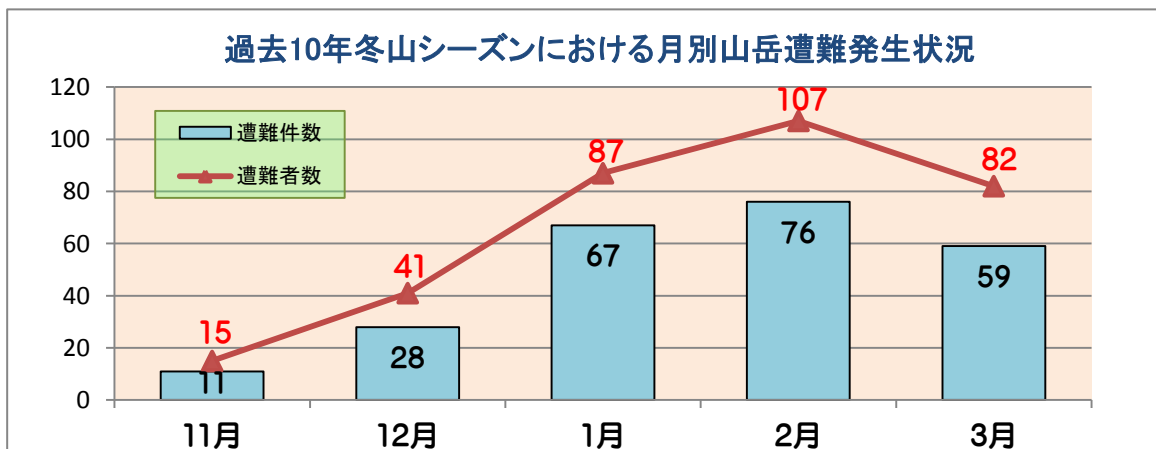
冬山シーズンにおける外国人山岳遭難者数



過去10年冬山シーズン中における遭難者332人のうち、**外国人は119人(36%)**である。

□ 過去10年冬山シーズンにおける月別山岳遭難発生状況

	11月	12月	1月	2月	3月	計
発生件数	11	28	67	76	59	241
遭難者数	15	41	87	107	82	332
死亡	2	4	6	9	10	31
負傷	9	10	33	39	23	114
無事救助	4	27	46	59	49	185
行方不明	0	0	2	0	0	2



□ 過去10年冬山シーズンにおける雪崩を原因とする山岳遭難発生件数

	11月	12月	1月	2月	3月	合計
発生件数	0	1	4	5	5	15

□ 過去10年冬山シーズンにおける雪崩を原因とする山岳遭難発生状況

	発生年月日	発生場所	遭難形態	遭難者		死傷等別	
				日本人	外国人	日本人	外国人
1	平成21年2月8日	ニトヌプリ	スキー登山遭難	4		負傷2、無事2	
2	平成21年3月2日	羊蹄山	スキー登山遭難	1		負傷1	
3	平成22年1月16日	尻別岳	スキー登山遭難	1		死亡1	
4	平成23年1月1日	ニセコアンヌプリ	スキー登山遭難	1		死亡1	
5	平成24年1月29日	尻別岳	スキー登山遭難	1		負傷1	
6	平成24年12月16日	三段山	スキー登山遭難	1		死亡1	
7	平成25年2月6日	羊蹄山	スキー登山遭難		1		負傷1
8	平成25年3月3日	上ホロカメツク山	BC遭難以外の山岳遭難	2		負傷1、無事1	
9	平成25年3月28日	富良野岳	スキー登山遭難		1		死亡1
10	平成27年1月23日	竹山(ルスツ村)	スキー遭難		1		負傷1
11	平成27年2月12日	尻別岳	スキー登山遭難		1		負傷1
12	平成27年3月11日	909m峰(赤井川村)	スキー登山遭難	1		死亡1	
13	平成28年3月26日	羊蹄山	スキー登山遭難	1		死亡1	
14	平成29年2月25日	ニセコアンヌプリ	スキー遭難	1	1	負傷1	死亡1
15	平成30年2月28日	風不死岳	BC遭難以外の山岳遭難	1		死亡1	

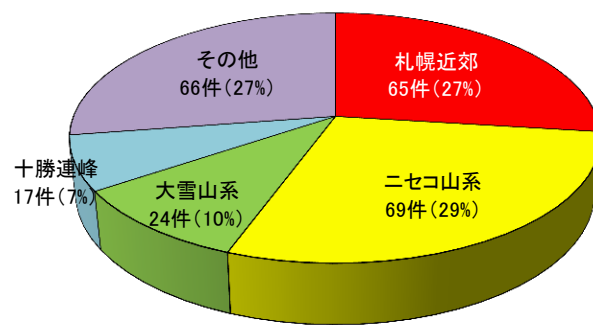
過去10年間に15件発生し、20人が遭難している(死者8人、負傷者9人、無事救助3人)。

※ 「BC遭難以外の山岳遭難」とは、バックカントリースキー遭難(スキー登山遭難及びスキー遭難)以外の山岳遭難のことを指す。

□ 冬山シーズンにおける山域別山岳遭難発生件数

	札幌近郊	ニセコ山系	大雪山系	十勝連峰	その他
平成20年	4 (2)	3 (3)	2 (2)	2 (1)	3 (2)
平成21年	2 (2)	2 (2)	2 0	2 (1)	2 (1)
平成22年	2 (2)	1 (1)	1 0	0 0	5 (4)
平成23年	1 (1)	1 (1)	3 (1)	1 0	1 (1)
平成24年	2 (2)	3 (3)	1 (1)	3 (2)	8 (1)
平成25年	2 0	0 0	0 0	2 (1)	3 (1)
平成26年	8 (3)	6 (6)	2 (1)	1 0	6 (5)
平成27年	20 (15)	22 (21)	4 (2)	1 (1)	9 (6)
平成28年	10 (6)	12 (12)	5 (3)	4 (3)	16 (12)
平成29年	14 (10)	19 (18)	4 (3)	1 0	13 (9)
計	65 (43)	69 (67)	24 (13)	17 (9)	66 (42)

過去10年冬山シーズンにおける山域別山岳遭難発生件数



※ 括弧内はバックカントリースキー遭難の件数で内数

□ 冬山シーズンにおける主要山岳別山岳遭難発生状況

	ニセコアンヌプリ										手稲山										旭岳															
	遭難件数			遭難者数							遭難件数			遭難者数							遭難件数			遭難者数												
	BC遭難	山岳遭難	BC遭難以外の山岳遭難	BC遭難		BC遭難以外の山岳遭難					BC遭難	山岳遭難	BC遭難以外の山岳遭難	BC遭難		BC遭難以外の山岳遭難					BC遭難	山岳遭難	BC遭難以外の山岳遭難	BC遭難		BC遭難以外の山岳遭難										
				スキー登山遭難	スキー遭難	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人				外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人				日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人					
平成20年	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0
平成21年	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0
平成22年	1	-	0	1	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0
平成23年	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	2	0	0	-	-	1	2	0	-	0	0	0	-	-	0	0
平成24年	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	1	-	0	1	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0
平成25年	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0
平成26年	1	3	0	1	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0		
平成27年	0	15	0	0	0	4	13	0	0	0	9	0	0	0	7	6	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0			
平成28年	0	12	0	0	0	6	7	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	3	2	0	0	0	3	2	2	0	0	0	3	2	2	0		
平成29年	0	16	0	0	0	8	18	0	0	0	4	0	0	0	2	13	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0			
計	2	46	0	2	0	18	41	0	0	0	16	1	0	0	11	20	1	0	3	6	5	1	2	4	4	4	4	2	4	4	4	4	2			

※ 「BC遭難」とは、バックカントリースキー遭難のことを指す。

※ 「BC遭難以外の山岳遭難」とは、バックカントリースキー遭難以外の山岳遭難のことを指す。

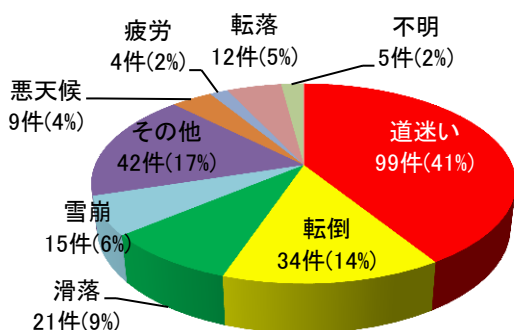
□ 冬山シーズンにおける原因別山岳遭難発生件数

	道迷い	転倒	滑落	雪崩	悪天候	疲労	転落	その他	不明	計
平成20年	5(5)	4(3)	2	2(2)	0	0	1	0	0	14(10)
平成21年	3(3)	0	2	1(1)	0	2(1)	0	2(1)	0	10(6)
平成22年	2(2)	1(1)	3(1)	1(1)	0	0	0	2(2)	0	9(7)
平成23年	4(2)	0	2(1)	1(1)	0	0	0	0	0	7(4)
平成24年	7(4)	0	2	4(3)	1	0	0	2(2)	1	17(9)
平成25年	2	1(1)	0	0	2	0	0	1	1(1)	7(2)
平成26年	7(5)	3(1)	4(2)	3(3)	1(1)	1	2(1)	2(2)	0	23(15)
平成27年	24(22)	7(6)	2	1(1)	2(1)	0	3(2)	16(13)	1	56(45)
平成28年	24(19)	6(6)	1	1(1)	0	0	2(1)	12(9)	1	47(36)
平成29年	21(17)	12(10)	3	1	3(3)	1(1)	4(4)	5(5)	1	51(40)
計	99(79)	34(28)	21(4)	15(13)	9(5)	4(2)	12(8)	42(34)	5(1)	241(174)

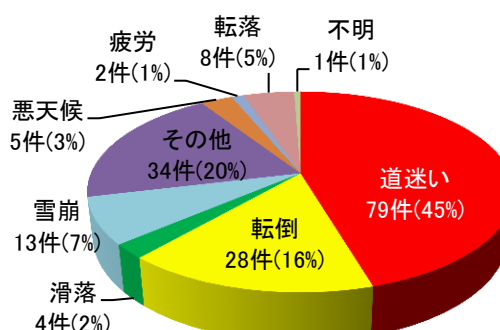
※ 括弧内はバックカントリースキー遭難の件数で内数

※ 遭難原因のうち「その他」は、立木衝突29件、装備不備3件、病気3件、低体温症2件など

過去10年冬山シーズンにおける山岳遭難の原因別内訳



過去10年冬山シーズンにおけるバックカントリースキー遭難の原因別内訳



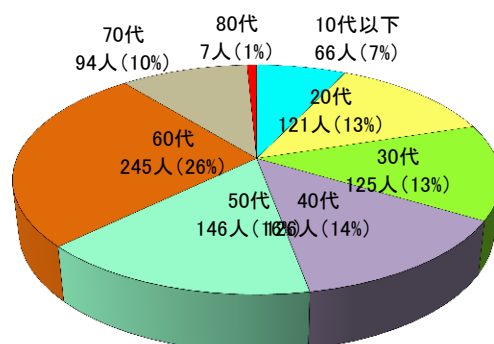
過去10年冬山シーズンにおける山岳遭難の原因別では「道迷い」が99件(全体の41%)で最も多い。
また、バックカントリースキー遭難の原因についても「道迷い」が最も多く、過去10年間で79件(バックカントリースキー遭難全体の45%)発生している。
冬山は標識や目印が積雪に埋没するほか、吹雪により視界不良となるために道迷い遭難が発生する。

□ 通年(1月から12月末までの間)における山岳遭難者の年代別内訳 (人)

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
平成20年	2	2	5	5	9	12	4	0	39
平成21年	2	6	19	10	16	42	5	0	100
平成22年	5	9	4	5	16	25	8	0	72
平成23年	0	4	10	9	8	23	7	0	61
平成24年	2	18	8	9	13	22	10	1	83
平成25年	3	10	10	11	15	17	7	0	73
平成26年	1	11	9	10	8	11	9	0	59
平成27年	31	22	14	27	17	25	13	2	151
平成28年	13	10	24	22	20	31	14	2	136
平成29年	7	29	22	18	24	37	17	2	156
計	66	121	125	126	146	245	94	7	930

※ 山岳遭難者を年代別で見ると、60歳代が最も多く、全体の26%を占める。

過去10年間通年における山岳遭難者の年代別内訳



□ 過去10年冬山シーズンにおける山岳遭難者の年代別内訳 (人)

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
平成20年	0	4	12	5	1	2	0	0	24
平成21年	1	1	4	2	0	2	0	0	10
平成22年	0	0	3	3	0	3	0	0	9
平成23年	1	2	1	2	0	3	1	0	10
平成24年	0	4	4	4	4	3	3	0	22
平成25年	0	3	0	1	5	1	1	0	11
平成26年	8	3	3	10	5	1	1	0	31
平成27年	12	5	17	15	10	3	7	0	69
平成28年	4	9	16	11	9	6	2	0	57
平成29年	8	17	16	21	23	4	0	0	89
計	34	48	76	74	57	28	15	0	332

※ 冬山シーズンの山岳遭難者を年代別で見ると、30代が最も多く、40代、50代と続く。

過去10年冬山シーズンにおける山岳遭難者の年代別内訳

